

～ All for one, One for all. ～



光の家

THE LIGHT HOUSE FOR THE BLIND

視覚障害者総合福祉施設
東京光の家会報

— 210 号 —

2021 年 1 月 1 日発行

わたしは、あなたもこのように働いて、弱者を助けなければならぬこと、また『受けるよりは与える方が、さいわいである』と言われた主イエスの言葉を記憶しているべきことを、万事について教示したのである。

使徒行伝
第二十章 三十五節



謹賀新年



楽しそうに正月のおせち料理を食べる利用者

旧年中は当法人の社会福祉事業に対します格別なるご支援に、深く感謝致しております。

昨年は新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るい、これまでに経験したことのないような生活の変化を余儀なくされました。利用者も様々な制約の中、できる限りの対策を行いながら、生活に喜びを忘れないよう、様々な工夫をして参りました。

コロナ禍は依然として続いており、私たち職員は、保護者の皆様や関係者の皆様にご協力頂きながら、引き続きコロナ禍でのより良い利用者の生活を追求して参りたいと思っております。皆様方のご健康とご多幸をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和三年 元旦

社会福祉法人 東京光の家

役・職員一同

新年あけまして
おめでとうございます

億万長者になるよりも貴いこと

東京光の家理事 小館 美彦



内村鑑三は言った。「基督教は制度ではない。教会ではない。それはまた信仰箇条ではない。教義ではない。神学ではない。それはまた書物ではない。聖書ではない。キリストの言辞でもない。基督教は人である。活きた人である。昨日も今日も永遠に変わらざる主イエス・キリストである。基督教がこれでないならば、・・・これでもないものであ

る。」(内村鑑三全集第二卷三六〇三七頁) まことに至言である。無教会の本質とは何かと問われるならば、まさしくこれであると

私は答える。そして内村に連なつた秋元梅吉もこの本質を分かち合い、その延長線上に東京光の家が生まれたのだと思う。事実、光の家の利用者もスタッフもそして運営責任者も、関係者のほとんどは活きるキリストを身近に感じ、キリストを模範として暮らし、働いている。そこではキリスト教徒であるかないかは全く関係ないのである。

ではキリストとは何であろうか。到底簡単に説明しつくせるものではないが、敢えて二言で言わせていただくなら、それは、愛と義を合わせ持った最高の人格であるということになる。キリストには、絶望のどん底で苦しむ人の傍らに寄り添い、その苦しみを分かち合うほどの深い愛がある。キリストには、人の心の奥底

を見通し、その罪をしかりつける厳しい義がある。そのような深い愛と厳しい義とを合わせ持った人格、それがキリストなのである。

このようなキリストを模範として暮らし、働くということは、そのような愛と義を合わせ持つ人格を養いつつ、それを目指して生きることである。これはつらいことではあるが、同時に極めて充実したこともある。そのように生きればこそ、人は真の生きがいを感じることができ、素晴らしい人間関係を築いていくことができる。

ところが、キリストを模範として暮らし、働ける場のなんと少ないことであろうか。ほとんど成り立たない。例えば、ビジネスの世界でキリストを模範として生きるのはほぼ不可能である。その目的は利潤追求なのだから。病院でもそれを実践することは難しくなっている。仕事の機械化や入院制限により、人間的なふれあいが失われつつあるのだから。

学校においてすら、その実践は困難である。ほとんどの学校における教育の実態は、知識や技能の習得と化しているからだ。

このような世界にあつて、光の家はそれができる数少ない場所である。キリストの深い愛と厳しい義を思う存分追い求めながら暮らし、働くことができる。そしてその豊かな果実を味わうことができる。これはなんと幸せなことであろうか。

だから、光の家の皆さんには、ここで暮らし、働けることの貴重さをぜひとも心にとめておいてほしい。そして間違つても他の場で成功している人をうらやんだりしないほしい。ここで皆さんが実践していることは、億万長者になるよりも、金メダルを取るのとよりも、断然貴いことなのだから。そして何よりも神様の御心になつたことなのだから。皆さんの上には、必ずや神様の祝福が注がれていることであろう。



二〇二〇 第102回クリスマス

「新しい生活様式の下で」

令和二年十二月十七日(木)



皆様の協力と神様の恵みの下で
無事にクリスマスを祝う事がで
きました事に感謝致します。
(クリスマス委員長 塚田 光子)

二〇二〇年早春から続く新
型コロナ感染症に対応する新し
い生活様式。光の家では複数の
会場をリモートでつなぐとい
う、今までとは全く異なる形でク
リスマスを行ないました。

今年は「三密を避ける」為、
招待を法人理事・評議員の皆
様に限定せざるを得ませんでし
た。そんな中、記念講演講師
には新しく理事にご就任頂いた

小館先生をお迎えでき、ヨハネ
による福音書をテーマに「死と
罪に打ち勝った人の子イエスは、
信じる者にも闇に打ち勝つ力を
与え、また闇の中にいる私たち
の側において下さる」と、力強く
語って下さいました。

例年なら最後のお楽しみ
な「会食」ですが、今年はこの
が豪華なランチに変わり、その
後の「祝会」で聖歌隊と神愛園

有志による演劇が発表されまし
た。聖歌隊は神愛園・栄光園・
新生園の利用者がそれぞれ別
場からリモートで歌声を届けて
くれました。高齢の利用者も多
い神愛園は、劇の事前収録とい
う新スタイルで、コロナ禍でも
神様に守られて一年を過ごすこ
とができた喜びを聖書の言葉と
共に表現してくださいました。

新しい生活様式の下、多くの



「礼拝」小館先生の講話



「祝会」聖歌隊



「祝会」リモートでクリスマス



「会食」美味しそ〜 ピース!



「会食」豪華なクリスマス料理

栄光園

東京一泊旅行

期間：①十月二十八日(水)～二十九日(木)
②十月四日(水)～五日(木)
行き先：東京ドームホテル

栄光園では、二班に分かれて一泊旅行に行ってきました。例年でしたら二泊旅行として行われている行事なのですが、今年は新型コロナウイルスの感染拡大により、リスクを最小化しつつの出発となりました。

東京再発見の旅として、東京タワーや屋形船体験、豪華なシティホテルでのフランス料理のフルコースを楽しむといった、例年とはかなり異なるプランの旅行でした。実は今年の旅行、実施がかなり危ぶまれたのですが、考えられる対策は最大に行った上で、日常生活を離れた旅行の楽しさを、何とか体験してほしいとの思いから、実現に漕ぎつけたものです。

各所での消毒や検温を始め、密接しない環境を維持することに留意しつつ、それぞれの訪問先を満喫することができました。

日野市も東京ではありませんが、



寅さんの気分です！

故に改めて観光しないのも東京という地域かもしれません。屋形船に揺られて、天ぶらを食べるとか、柴又・帝釈天の門前でお団子をいただくといった経験をして、皆さん大変喜んでいました。また、最も楽しみなお土産選びでは、東京のうまいものって何だったの？と考える、改めて探し出すといった充実感も得られ、新たな日常生活への意欲向上につながることができました。

就労一泊

日帰り旅行

期間：十一月十日(火)
行き先：ムーミンバレーパーク

就労ホームでは、埼玉県飯能市にあるムーミンバレーパークに行ってきました。バスを二台利用して密を避け、そのバスの中も飛沫防止用のビニールシートで仕切られており、新型コロナウイルス感染予防対策を十分に行った上で旅行を実施しました。ムーミンは日本でも有名ではありますが、利用者の中には詳しくは知らない方もいるため、移動のバスの中でDVDを観てそれぞれのキャラクターの名前などを予習して、いざパーク内へ！

湖と林、紅葉が始まりかけている少し本場のフィンランドに似た？景色が広がる中、アトラクションやミラー作り体験、お土産などの買い物、ムーミンと一緒に写真を撮るなど班ごとにムーミンの世界を満喫しました。また、今回の旅行では、Go To キャン

ンペーンにより一人二〇〇〇円のクーポン券を頂きました。早速このクーポン券を利用して、ちょっと贅沢なスイーツを食べたり、お土産の資金に充てるなど、その恩恵にあずかることが出来ました。天気にも恵まれ、日頃の仕事を忘れて、楽しいひと時を過ごすことが出来、また明日からの英気を養えた旅行となったと思います。



ムーミン谷に来ました～



地区センターでの点字教室の様子



点字って楽しいなあ～



点字教室

光の家SDGs活動「質の高い教育を」

令和二年十二月五日(土)
旭が丘中央公園地区センター

今年の点字教室は、事前に申し込みされていた七名全員が参加して下さいました。時間になると、和やかな雰囲気の中、点字教室は始まりました。参加者の皆さんには、テキストを配布し、点字の仕組みや読み方など、基本的なことから説明を始めました。最初は、皆さん戸惑い気味でしたが、慣れてくると笑顔も

見られました。最後には点字で書かれた終了証をお渡しして、点字教室は無事終了しました。国連が定めた、持続可能でよりよい世界を目指す国際目標、SDGs十七の目標の中の、「質の高い教育をみんなに」に沿って、光の家では地域の方を対象に、このような福祉教育を行っています。



介護等体験

光の家SDGs活動「質の高い教育を」

東栄女学園大学
①十月二十六日(月)～十月三十日(金)
②十一月九日(月)～十三日(金)
③十一月十六日(月)～二十日(金)



印刷業務しました！

光の家では、年間を通してさまざまな研修、実習、見学等の受け入れを行っています。今年度は恵泉女学園大学より、「介護等体験」の受け入れを行いました。学生の皆さんが四名ずつのグループで五日間ずつ、三週間にわたり行われ、計十二名の方々が、光の家の様々な活動の体験をされました。



車椅子体験でポーズ！

家就労ホーム、光の家障害者グループホームと、五日間をフルに使って、光の家の活動を可能な限り多く体験して頂きました。どのグループの皆さんも、最終日には聖書集會にて工夫を凝らした挨拶・自己紹介を披露して頂きました。コロナ禍で様々な制約の多い活動ではありましたが、十二名の皆さんのおかげで、爽やかな風の吹き抜けた三週間でした。

2021

新年の抱負



抱負、

たくさんあります！

光の家新生園 中村 美希

私の抱負は、まず作業訓練の籐細工で籐を霧吹きで湿らせ、折れないように編みたいと思います。また陶芸作業では迫力のある作品作りや、水漏れしないカップ作りを目指したいです。

最後に生活面では、周りの人と声を掛け合いながら、二〇二一年は新型コロナウイルスが流行しないことを願って、元気に生活したいと思っています。



楽しみながら作っています!!

栄光園の入所生活に

早く慣れたいです

光の家栄光園 青木 信弘



点字製版の仕事をする青木さん

私は令和二年の七月から、これまでの栄光園の通所利用から、入所となりました。新生園での訓練を経て、作業棟の2係で点字製版の入力・校正作業を続けています。栄光園の皆さんとはすでに顔なじみですが、入所としての生活に早く慣れ、自分らしく暮らしていきけるよう、これからもよろしくお願いします。

運動を通して

元気に過ごします

光の家神愛園 杵掛 正人

昨年はコロナウイルスの影響で民謡サークルの大会が開催されなかった事が残念でしたが、旅行に行けた事は嬉しかったです。

今年は運動の機会を増やして体力をつけ、コロナウイルスに負けず健康に一年を過ごしたいと思っています。



自転車漕ぎがんばってます!

毎日元気に

がんばります

光の家就労ホーム 中西 ゆい



きれいな紙を作るぞ!

今年で私は二十四歳になりました。二〇二一年の私の目標は紙漉きのローラー作業を頑張ることです。綺麗な紙が出来るように気をつけて取り組んでいます。休みの日は、新婚さんいらっしやいとアタック25を見て気分転換をしています。アイウ体操も頑張ります!



壁の先にあるものを
目指して

光の家マッサージホーム 鈴木 鉄也

お客様の主訴に対応する施術を行う上で、それに伴う知識を持つということはとても大事なことだと思っています。ただ、知識量≠技術力へとは繋がらない(繋がられないでいる)ということ。

教え通りにはならないもどかしさと感覚の鈍さに施術師としての意味を失ってしまいそうになることもあります。ですが、先輩方のように、お客様から苦を取り除き喜んでもらえるような施術師を目指したいと思います。



全力でお客様の疲れを癒やします！

自分でできる事を
増やします

光の家グループホーム 有山 智美

今年度から光の家グループホームで生活を始めました。初めてのことが多い毎日ですが、洗濯や掃除など、今まで自分では行っていなかった事でも、自分で出来るようになりました。新しい年もきれいなお部屋で過ごしたいので、きちんと隅々まで掃除ができるよう、頑張りたいと思います。



自分でできることが増えました！

第 24 回 手さぐりの作品展

【日 時】2021年(令和3年)2月19日(金)～21日(日)
午前10時～午後7時
【会 場】イオンモール多摩平の森 イオンホール A
【問合せ】東京光の家 電話 042(581)2340

光の家新生園の利用者が、作業訓練の中で作った陶芸、木工、籐細工、手芸、紙の作品を展示します。是非、作品を触って手で視覚障害者の利用者の方々が作った作品を鑑賞してください。



来て見て触ってください！

寄付者名簿

令和二年十月十四日
十二月十五日

石川 紀子様	坂本 武様	株式会社リード・リアルエステート様	小林 香様	鈴木 京子様	井川 寿美江様	北原 武様	坂本 いずみ様	浅石 常勝様	米倉 清治様	平岡 理恵様	茂木 幹央様	社会福祉法人 日本失明者協会理事長	大滝わらしべ園施設長	土屋 いち子様	齊藤 勝栄様	社会福祉法人 岡山福祉会理事長	佐藤 幸則様	内藤 靖起様
りんご	みかん	米	キャベツ	さつまいも	りんご	りんご	米	米	米	かぼちゃ	りんご	りんご	米	ラ・フランス	米	米	りんご	文化ちりとり
六四個	七〇個	一二kg	三六kg	一一kg	二〇三個	一八〇個	三〇kg	二七kg	五六、八kg	一一kg	一四個	三kg	一〇kg	三kg	一〇kg	三本	一二六個	三本

※紙面の写真は、すべてご本人の許可を得て掲載させて頂きました。





光の家SDGs活動「不平等をなくそう」「まちづくりを」
障害者週間
ラグビー選手と清掃活動
ホーム転落事故防止活動
 令和二年十二月三日(木)～九日(水)



ラグビーチーム「日野レッドドルフィンズ」の選手と一緒に清掃しました

「障害者週間」は、障害のある人となない人がお互いに尊重して支え合う「共生社会」の実現を目指すために定められています。私たちが暮らす日野市でも、関連行事が企画されましたが、今年は新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、昨年のようにホールに集まっていたイベントが開催されませんでした。

そんな中、光の家では、利用者が、日野市に本拠地を構えるラグビーチーム「日野レッドドルフィンズ」と一緒に日野駅前清掃活動、障害者美術展で最優秀賞を頂いた陶芸作品「パイナップル」の市内小学校への展示、そして、駅ホームでの視覚障害者の転落事故を防止するため、JR豊田駅で「声掛けサポート運動」に参加させて頂きました。



駅員さんと一緒に声掛けサポート運動しました！

新理事・新評議員の方々が就任されました

光の家では、十月の臨時理事会、臨時評議員会にて、退任された篠崎友照理事の後任として小館美彦理事が就任されました。

また、逝去された軽部義和評議員と退任された山下勉評議員の後任として、澤田研二評議員、山下望評議員が就任されました。



山下 望
評議員



小館 美彦
理事



澤田 研二
評議員

法人役員

理事長

石渡 健太郎

理事

相澤 忠一

小亀 寛治

杉山 美彦

松本 栄二

監

(五十音順)

白事 富士夫

藤井 洋

問田 閑男

杉山 閑男

評議員

安藤 幸子

梅田 俊幸

佐藤 保武

澤川 宣二

山田 研二

引下 望一

横山 望一

(五十音順)

発行 東京都日野市旭が丘一〇〇六五
 社会福祉法人 東京光の家
 電話 〇四二(五八)二三四〇
 FAX 〇四二(五八)九五六八